

第八回

# 阿波路会

題字：天羽汕景

あわじかい

義太夫節三味線の人間国宝、故鶴澤友路師に師事し、二十余年余りにわたりコンビを組んで活躍する徳島の太夫・竹本友和嘉と淡路人形座の三味線奏者・鶴澤友勇が、地域の伝統芸能である語り音楽「義太夫節」の魅力を広めていこうと平成二六（2014）年に立ち上げた女流義太夫会。

## 玉藻前蟻袂 道春館の段

2021年 12/19 日

16:00～17:30

会場 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷  
料金 1,500円（入場料+床本代）  
※未就学児の入場はお断りいたします。  
主催 阿波路会・阿波十郎兵衛屋敷  
解説 正井良徳（公財）淡路人形協会理事長

●お問合せ・チケット販売

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷  
徳島市川内町宮島本浦 184  
電話 088-665-2202, Fax.088-665-3683

●感染症拡大防止のため、100席限定  
発熱、風邪症状のある方は入場できません。  
マスク着用、手指消毒をお願いいたします。



竹本友和嘉(太夫)

豊澤町子に師事し、昭和51年初舞台。平成8年鶴澤友路師匠(人間国宝)に入門し、平成9年竹本友和嘉を名乗る。東京国立劇場の「阿波の芸能」人形浄瑠璃公演をはじめ、国立演芸場での女流義太夫演奏会に出演するほか、数多くの海外公演にも参加。また小中学校対象の「義太夫節のワークショップ」をはじめ、十郎兵衛屋敷での義太夫教室や阿波路会を開催している。平成14年に人形浄瑠璃因協会奨励賞、平成21年には人形浄瑠璃因協会女子部門奨励賞、平成29年にとくしま芸術文化奨励賞を受賞。重要無形文化財(総合認定)保持者。



鶴澤友勇(三味線)

昭和53年に鶴澤友路師(人間国宝)に入門し、昭和60年に淡路人形座に入座。同年、鶴澤友勇を名乗る。数多くの海外公演にも参加。また国立劇場、京都造形芸術大学「春秋座」、義太夫保存会が主催する女流義太夫演奏会などへの出演、阿波路会の開催、小中学校対象の「義太夫節三味線のワークショップ」や、南あわじ市立三原中学校郷土芸能部の太夫、三味線の指導など幅広く活躍している。平成12年には人形浄瑠璃因協会奨励賞、平成25年には第33回伝統文化ポラ賞を受賞。重要無形文化財(総合認定)保持者。

たまものまゝあざひのたまも

## 道春館の段

みちはるやかたのたん

道春の後室萩の方が采女之助を呼び、紛失した獅子王の剣の探索を頼んでいると、そこに皇子からの使者として鷲塚金藤次がやってきました。金藤次は、皇子が以前から望んでいる獅子王の剣を差し上げるか、もしくは桂姫の首を討って渡すか、二つに一つと返答を迫ります。萩の方は、桂姫が実子ではなく、子のない夫婦が祇園参籠の帰りに拾った義理の子であることを明かし、実子の初花姫を身替りにするよう頼みますが、金藤次は聞き入れません。そこで、姉妹に双六をさせ、負けた方の首を討つように頼みます。奥で様子を聞いていた二人の姫が、死を覚悟した白小袖姿で現れました。互いに自分が犠牲にと死を争いますが、母の勧めに双六を始め、ついに初花姫が負けます。しかし金藤次は、思いがけず桂姫の首を討ちました。約束が違うと怒った萩の方は長刀を持って金藤次に斬りつけますが、かなわずに押さえ込まれてしまいます。そこに采女之助が現れ、金藤次を刺します。深傷を負った金藤次は、言い残すことがあると言い、桂姫こそ自分が捨てた娘であること、育ての親への恩義のために初花姫を討たず桂姫を討ったこと、獅子王の剣も仕官のために自分が盗みとり今は皇子の館にあることを、後悔しつつ語ります。皆が嘆くうち、采女之助は剣を奪い返しに皇子の館へ行こうと立ち上がり、金藤次は刀を抜いて息絶えるのでした。